

事業報告

コミュニティづくり協働事業の助成を決定

「コミュニティづくり協働事業助成金」の2011年度助成事業が決まりました。この助成金は、人権尊重のコミュニティづくりに向け、共通の課題を解決するために、被差別・社会的マイノリティ当事者と地域住民とが協働で取り組む活動を応援します。

【助成事業と助成団体】

- ①小学生向け人権講座・セクシュアリティ入門DVD製作（新設Cチーム企画）
- ②外国人も安心して医療・保健サービスが受けられる地域社会の創造事業（みのお外国人医療サポートネット）
- ③ハンセン病問題啓発パンフレット検討報告書作成事業（ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会・関西実行委員会）
- ④子どもへの暴力防止プロジェクト（社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会）
- ⑤障害者の芸術文化モデル構築の為の第7回車いすダンス公演事業（ジェネシスオブエンターテイメント）
- ⑥在日外国人家庭とつながろう「もろふく共育停留所」開設事業（在日外国人家庭もろふく共育プロジェクト）
- ⑦非行の子どもたちの社会参加のために～居場所の必要性和次への一歩事業～（特定非営利活動法人関西子ども文化協会）
- ⑧児童養護施設で育つ子ども若者の交流および対話・エンパワメント事業（Children's Views & Voices（CVV））



「よりそいネットおおさか」定例会を開催

8月18日に「よりそいネットおおさか」第9回定例会を大阪市立大学都市研究プラザ・西成プラザにて開催しました。

この定例会は沙龙的に刑余者問題に関わる様々なテーマを議論しているものです。

今回は、都市部の生活困窮者支援調査のために来阪されていた、特定非営利活動法人「自立支援センターふるさと会」の佐久間さんと田辺さんを招き、同会の取り組みを中心に都市における困窮者支援や自立準備ホーム事業について学習を深めました。

具体的には、長年、東京都台東区・墨田区を中心に実施してきたホームレス自立支援のための宿泊施設運営や自立支援のノウハウを活かし、2011年6月にオープンしたサテライト型の更生保護施設の現状を学びました。一般の住宅を改造して宿泊施設を開設し、保護観察所からの依頼で主に軽微な犯罪で不起訴となったホームレスの方を中心に受け入れているとのことでした。

開設して日が浅いため、就労自立した方はまだいないとのことでしたが、ハローワークへ行く前段階として、周辺の系列施設の配膳係や洗い物を任せる等で自立意欲を助長する取り組みとしてホームレス支援の事業とリンクさせた支援を行っているとのことでした。

サテライト型更生保護施設の入所中は生活保護を受給している訳ではないので、医療に関しては無料低額診療で対応しているようでした。

参加者からは経営面や日々の見守り体制についてなど活発な質問が寄せられました。

定例会は隔月の第3木曜日に開催して行く予定です。



RAAP養成講座3期 実践の自信を得た6日間

人権学習の7本のプログラム（RAAP（ラップ））を実施できるファシリテーター養成講座第3期を、2011年7月27日から8月10日にかけて6日間の日程で開催しました。今期の参加者は8人（人権協会等1人、行政関係3人、個人4人）でした。

講座は、RAAPプログラムの体験と参加者自身による実践、実践を支える理論学習、ファシリテーターそのものへの理解を深める内容で行われました。また今期から、部落問題の基礎を学ぶ内容が充実しました。

単に「ネタ」を持ち帰る場ではなく、研修のテーマに人権問題を取り上げる参加体験型学習のファシリテーターとして、他の受講生と共に今一度自分自身を振り返ることのできた講座でした。

【参加者の感想】

- ・経験学習の4段階や成人学習のポイントなど理論の部分について、今後とても役立つと思いました。
- ・講師との距離が至近で、なんでも気楽に質問ができて、受講生の皆さんも個性豊かで、熱心でとっても中身の深い充実した講座でした。
- ・部落問題について正面から向きあうセミナーができそうな気になりました。

